

## 第5回スポーツクライミング

### アジアユースチャンピオンシップ大会報告

# 北海道選手団も大活躍

ご支援いただきましてありがとうございました。

## 3人がそろって入賞

國谷斗馬選手（美唄工業高校）ユースAスピード第2位

萩原亜咲選手（倶知安高校）ジュニアリード 第3位

杉本 怜選手（手稲東中学校）ゆーすBリード 第2位



北海道選手団（左から國谷、萩原、杉本の各選手）開会式会場にて12月3日



12月1日から5日まで香港で行われた、第5回アジアユース大会に北海道から初めて3人もの選手が推薦されて出場することが出来ました。

出場12カ国の強豪と技を競い合い日頃の練習の成果を十分に出して、臆することなく見事な登りを見せてくれました。



**初日に行われたスピード競技**には、北海道から國谷選手が出場しました。もともと、日本ではあまり開催されない競技ですが、今回は日本選手団から初めて男子5名、女子1名がエントリーしました。とにかくハードでタフな興奮する競技でした。

國谷選手は出場者が一番多いコースAのカテゴリーで予選を2番目のタイムで通過しました。A、B2本のルートを2人で登り、その合計タイムで予選が行われました。高さ12m、ハング有り、張り出し有りの変化のある壁を9秒台のスピードで駆け上がる様はまるで猿のようでした。

決勝は8人のトーナメント方式、これも2本のルートを二人が登り、2勝すれば勝ち、対の場合は合計時間で決める方式でした。トーナメントを順調に勝ち進み、決勝は中国の選手との対戦になりました。ここまで、予選2本、トーナメントで4本登り、決勝までには実に8本も全力で登らなくてはならないという大変な競技です。



國谷選手は、1本目を勝ち優勝を決める2本目の最上部で惜しくもフォール惜しい第2位となりました。予選から決勝まで12mの壁を8本駆け上がる力は凄いものでした。最高タイムも8秒台を出して、1m1秒の壁をあっさり越してしまいました。その日の

午後からは、リードの予選が行われましたが、國谷選手は残念ながら予選10位と調子があがりませんでした。(無理もないことです)



18m×16mの巨大な壁で行われました。

## リード競技予選

スピード競技が終了して1時間後、リード競技の予選が開始された。予選は翌日に2本目を登りその順位のトータルから決勝進出者が決まります。

コースBに出場した杉本怜選手は、5、12 後半のルートを手33まで登り第3位で初日を終了した。

翌日の予選2本目は難しいルーフも楽にこなして、第2位の成績で予選を終了、2本の合計で第2位で決勝進出を決めた。

ジュニア女子に出場の萩原選手も初日の予選1本目は第2位で終了し、翌日の2本目は同率2位、ポイント差で第3位で決勝進出を決めた。昼間は直射になると北海道の夏より暑くなり朝夕は15 まで下がり体調の管理が大変な季節で、万全の調子で望めなかったのが悔やまれます。

コースAに出場の國谷選手は、前記の通りあまりにもタフなスピード競技で力を吸い取られてしまい。リードでは力が出し切れず。予選1本目は10位、翌日の2本目も10位と挽回できず決勝進出はなりませんでした。

## リード決勝

コースB 2位で決勝進出を決めた、杉本選手は 5,13 前半のルートで見事な登りを見せてくれました。

予選を1位で通過した韓国のリー選手が26手でフォール、杉本選手も全く同じ所まで登り決勝は同率で1位、カウントバックにより予選の順位が考慮されて惜しくも第2位となる。ここまで伸びた杉本選手は、今後も大いに期待が持てる選手で、本人、周りの環境を整えば来年の世界コースも視野に入ってきています。多くの方々のご支援を今後も期待しております。

ジュニア女子決勝に出場した萩原選手も、安定した登りで垂壁からルーフに入り、見事な足裁きでルーフを渡り、抜け口のホールドから次のホールドに届くも甘いところにかかってしまいフォール、順位は変わらず第3位の成績で終了しました。

萩原選手、國谷選手のクイックにかける情熱は素晴らしいものがありました。国体での優勝、入賞、コースチャンピオンシップ大会、JOCジュニアオリンピックカップ大会等、引率した大会のすべてで決勝に進出してくれました。多くの後輩達が目標にしている選手になり、二人にはその自覚と毎日の練習がまだに続いています。コースの年代を終わり新たなカテゴリーで世界選手権、ワールドカップへと飛び出してもらいたいと思っています。本当にご苦労さんでした、今後期待しています。



アジアユースの年代では、日本が一番強く、合計10人の入賞者を出しました。中でも、安間選手、野口選手は他を圧倒する力があり今後も世界の舞台で活躍していくことでしょう。韓国、中国、香港、インドネシア、タイにも強い選手が出てきていました。今回オーストラリアからも多くの干選手が出てきました。オセアニアはアジアと別地区なので順位には入らないものの多くの選手が上位に食い込んでいました。

大会は朝の8時から夜の9時までと、ハードスケジュールでしたが少しの時間を利用して、がんばってきた選手達に、夜の観光とおいしい食事を食べさせてやることができました。皆様方からのご支援があったからこそでした。

ありがとうございました。  
海上レストランジャンボでの夕食、ビクトリア・ピークか



らの香港百万ドルの夜景も見ることが出来ました。

野口選手も萩原さんの大の仲良しで同行しました。

(奈良記)

